

## ある青年の素晴らしい行動に応援を！

メル友の、あるHPへの掲示板への以下の投稿を目にした。

「地下鉄駅近くで、某通所施設に通っている青年に声を掛けられ、その人の手書きのチラシをもらいました。彼は光のページェントを見に行った時に、若い男の人達にからかわれたり、つばをかけられたりして、たいへん傷ついたそうです。そこで、そんな目にあっている自分以外にも同じような立場の人がいたら、周りの人に助けてもらいたいと、自分で手書きのチラシを作って街行く人に配って協力をお願いしているとのことでした。彼の行動力を素晴らしいと思うと共に、彼と同年代の人が差別をしていると言う現実がガッカリしてしまいました。福祉の制度は色々できていても、一人一人の理解はまだ難しいのでしょうか…。せめて、あのチラシを見た人すべての人が理解してくれることを願いたいものです。」

私は、早速このメル友へ次のように送信した。

「取材に来たマスコミの記者の名詞があると思います。こうした現実、また青年の行動のことを連絡されてはいかがでしょうか。手元にそのピラはまだあるのでしょうか？マスコミが、この青年の行動を記事にするかどうかは別問題で、記者にこうした現実を理解させるだけでも意味があるように思います。人に理解を願うだけでなく、こうした現実を目にした時、自分としてもどう行動することが今あるか、できるか（例えば、記者の耳に入れる）を考えるのも大事かと思いますよ。ご検討ください。」

後日、メル友から次の返信があった。

「アドバイスありがとうございました。何かしなければと思いつつ、掲示板に投稿するだけで終わってしまいました。早速マスコミに連絡し、チラシもファックスしました。少し手応えがありました。さまざまな現実を目にした時、どうすればいいのか、考えることは本当に大事なことだと改めて思いました。」

以上からご理解いただけるように、みんなが、ささやかでもまず自ら出来そうなことを考え、自ら行動を始めることが、社会を変えていくことに通じ、取りも直さず社会を構成する一人一人が変わっていくことでないかと、私は思っています。

(2004年01月23日記)